

国語 第4学年 読んで考えたことを、友達と伝え合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、物語を読んで印象に残った言葉や人物の行動を選び、そこから考えたことを伝え合う。同じ場面を根拠にしても考えが異なることを確かめ、自分が見落としていた叙述を読み直す。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「読んで考えたことを、友達と伝え合おう」 教材名 「スワンレイクのほとりで」

2 単元の目標

人物の行動や気持ち、情景を表す語句を確かめ、考えを述べる文で使える。物語を読んで考えたことに根拠を添えて共有し、同じ場面への感じ方に違いがあると気付ける。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①人物の行動や気持ち、情景を表す語句を確かめ、考えを述べる文で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、物語を読んで考えたことに根拠を添えて共有し、同じ場面への感じ方に違いがあると気付いている。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

物語を読んで印象に残った言葉や人物の行動を選び、そこから考えたことを伝え合う。同じ場面を根拠にしても考えが異なることを確かめ、自分が見落としていた叙述を読み直す。学習指導要領のC(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

発言を「根拠となる叙述」と「そこからの考え」に分けて板書する。意見が違ったら根拠を読み合い、どちらが正しいかの多数決はしない。人物名や場面の切れ目は使用する教科書で確かめて記す。おおむね満足できる状況は、物語を読んで考えたことに根拠を添えて共有し、同じ場面への感じ方に違いがあると気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

第1次 第1時：○全文を読み、印象に残った場面と初めの考えを記録する。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○人物と出来事を確かめ、場面の移り変わりを整理する。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時：○自分の考えに関わる行動や情景を探し、前後の場面を読み合わせる。 評価：学習状況を見て

支援する。

第2次 第4時：○根拠と考えを対応させて短い文章にまとめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第5時（本時）：○考えを伝え合い、同じ場面への感じ方や着目した言葉の違いを確かめる。 評価：思

①（発言・学習記録）

第2次 第6時：○友達の見方を受けて場面を読み直し、記録に追記する。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第7時：○初めの記録と比べ、違う感じ方に出会って気付いたことをまとめる。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（5／7）

（1）本時の目標

物語を読んで考えたことに根拠を添えて共有し、同じ場面への感じ方に違いがあると気付ける。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この場面のどの言葉や行動から、その考えをもちましたか。同じ場面を読んだ友達は、何を大切にしていましたか」

【めあて】物語を読んで印象に残った言葉や人物の行動を選び、そこから考えたことを伝え合う。

予想される児童の反応：・自分は行動に注目したが、友達は周りの様子も読んでいた。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この場面のどの言葉や行動から、その考えをもちましたか。同じ場面を読んだ友達は、何を大切にしていましたか」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・自分は行動に注目したが、友達は周りの様子も読んでいた。

・同じ言葉でも受け取り方が異なる。

・前の場面を読み直すと、最初の考えに説明を加えられる。

指導上の留意点：発言を「根拠となる叙述」と「そこからの考え」に分けて板書する。意見が違ったら根拠を読み合い、どちらが正しいかの多数決はしない。人物名や場面の切れ目は使用する教科書で確かめて記す。

想定する難しさ：自分の経験だけで登場人物の気持ちを決める。友達と違う感想を誤りだと思う。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 物語を読んで考えたことに根拠を添えて共有し、同じ場面への感じ方に違いがあると気付いている。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・前の場面を読み直すと、最初の考えに説明を加えられる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この場面のどの言葉や行動から、その考えをもちましたか。同じ場面を読んだ友達は、何を大切にしていましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じ

ところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

